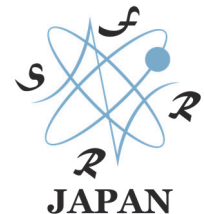


SFRR Japan NEWSLETTER

June, 2020



TOP NEWS

新しい日常へ
～新型コロナウイルス (COVID-19)感染対策を講じながら

この度の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に罹患された方、ご家族、その関係者の皆様には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また、感染拡大防止に、日々ご尽力されている皆様には、深く感謝申し上げます。

緊急事態宣言が全国的に解除はされましたが、感染防止策を講じつつ社会経済活動を段階的に本格化させる新たなステージが示唆される中、会員の皆様におかれましても、十分ご留意の上、研究活動、学会活動含め益々のご活躍をお祈り申し上げます。



水無月のご挨拶

理事長 豊國 伸哉
(名古屋大学医学系研究科 教授)

本年も梅雨の季節を迎え、はや半ばが過ぎようとしております。学会員のみならずお元気でいらっしゃいますでしょうか？本年1月には東京オリンピックの話題も書かせていただきましたが、誰もが予想していなかった新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、日本全国においても4月に緊急事態宣言が発令されました。2年に一度のSFRR Internationalが台湾桃園市(台北市のお隣) Chang Gung Universityで3月17日～20日に開催される予定でしたが中止となり、また日本酸化ストレス学会(会長 鳥取大学医学部 松浦達也教授)も10月に延期となっております。

この事態に伴い、研究の遅れ、にわか仕立てのウェブ授業、種々の予定の仕切り直しなど、極めて忙しい時期を過ごされた先生方が多いのではないのでしょうか？私は、2月のSFRR Indiaならびに日本酸化ストレス学会東海支部年会以降、学会のない日々を過ごしています。あまり眠れないような時期もしばらくありましたが、教授会も含めてBusiness meetingがすべてウェブになったので、これまではなかった時間的な余裕が生まれる時期もありました。今回よくわかったのは、感染症は決して終わった病気ではない、ということでしょうか。あと数十年すると細菌感染症に関しても今の抗生剤が効かなくなってくるという予測をする研究者もいます。今回のパンデミックを、レドックス・バイオロジーの関連する種々の観点から考えてみると、人類に対していろいろな貢献ができるかもしれません。

この学会の特徴は、以下の4つです。1) 極めて幅広い興味の研究者が所属、2) 海外組織との連携が密で多数の国際学会に参加可能、3) 学会誌を複数保有 (J Clin Biochem Nutr, Free Radic Res, Free Radic Biol Med, Redox Biol)、そして4) 若手への賞が多いことです。今週、私は昨年4月に内藤裕二副理事長が会長として開催されたSFRR Asia 2019 KyotoのFree Radical Research誌の特集号をようやく仕上げたところです。この機会にこれまで蓄積したデータを論文文化したり、総説を書くのに挑戦したりしてみるのもいいのではないのでしょうか？特に、若手の研究者はとにかく査読をコンスタントにすること、40才までには英文の総説を1編は書いてみることをおすすめします。本学会には関連誌が多いことを思い出してください。

末筆となりましたが、会員各位におかれましては、パンデミックが終了しつつある今、健康と安全に十分に留意され、ますます御活躍になることを祈念しております。

◆◆◆ 年次学術集会準備状況 ◆◆◆

第73回日本酸化ストレス学会学術集会 【日程変更】

会期: 2020年10月6日(火)～7日(水) (6/3-4より変更)
会場: 米子コンベンションセンター BIG SHIP
〒683-0043 鳥取県米子市末広町294
会長: 松浦達也(鳥取大学医学部生化学教授)
ホームページ: <https://www.sfrj73-nosj20.net>



開催のご挨拶



第73回日本酸化ストレス学会学術集会

会長: 松浦 達也
(鳥取大学医学部生化学(旧統合分子医化学)教授)

5月25日に全国の緊急事態措置が解除されましたが、新型コロナウイルス感染が全国に拡散したことにより、皆様方の生活にも多大な影響が出ていると思います。さて、令和2年6月に予定しておりました第73回年次学術集会も、現況を鑑み、令和2年10月6日(火)～7日(水)に延期することになりました。開催場所は延期前と同じ鳥取県米子市の米子コンベンションセンターです。既に演題募集は締め切りましたが、開催延期によりご出席できない方もおられ、大変ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。また、今回は大勢での飲食を避けるため、懇親会も開催するのが困難であると判断し、中止という苦渋の選択をいたしました。楽しみにされていた会員の皆様には重ねてお詫び申し上げます。

今大会では、特別講演として、本年4月に日本学士院エジンバラ公賞を受賞された北 潔先生(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 研究科長)に「ミトコンドリア呼吸鎖電子伝達系による低酸素適応」という講演をお願い致しました。シンポジウムは、酸化ストレスを含めた様々なストレス応答の生体における役割について考える目的で「ストレス応答による生体防御の分子機構」、酸化脂質解析法の新展開を紹介する目的で「新しい酸化脂質解析法を用いたオキシリポイドバイオロジー研究」という2つを企画しました。また、今回は日本NO学会との合同学術集会ですので合同シンポジウムとして「酸化ストレス・NOから見た疾患病態解析の新展開」を企画しました(上記詳細は大会ホームページ参照: [sfrj73-nosj20.net](https://www.sfrj73-nosj20.net))。一般演題はNO学会分も含めて約120題を予定しています。

新型コロナウイルス感染症拡大にやや減速が見られたとはいえ、このウイルス感染のステルス性を考えますと、ワクチンがない現状では今後も細心の注意を払わなければなりません。年次集会も対策を準備して無事執り行えるよう努めて参る所存です。皆様方にもご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

学術集会延期に伴う関係会議の変更等

法人では、基本的に定時代議員総会は、毎事業年度の終了後3ヵ月以内に開催する規定となっているが、予期せぬCOVID-19感染拡大に伴い、特例的に開催延期が可能となっている為、以下のように関連会議などの予定を変更します。

理事会: 現理事の任期は次回定時代議員総会の終結の時まで。

10月の延期日程までに必要な討議事項が発生した場合は、WEB理事会などにて対応。

新理事会: 昨年秋に選出された新理事候補者は、次回定時代議員総会(10月)での承認を経た後、任期がスタート。総会終了後会期中に新理事会を開催予定。

代議員総会: 10月 年次学術集会初日に開催予定。

* 理事・監事の任期: 「選任された年の定時代議員総会の終結の時から選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会の終結の時までとする。」と規定されている為、代議員総会のずれ込みにより、任期が通常より短くなる予定。

◇◇◇ 次々期年次学術集会案内 ◇◇◇

第74回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 令和3年5月19日(水)~20日(木)
 会 場: 仙台国際センター(宮城県仙台市)
 会 長: 藤井順逸
 (山形大学大学院医学系研究科
 生化学分子生物学教授)



令和3年の第74回日本酸化ストレス学会学術集会を、第21回日本NO学会学術集会と合同で開催させていただくことになりましたので、ご挨拶ならびに準備状況をご報告させていただきます。日本NO学会については、東幸仁先生(広島大学原爆放射線医学研究所教授/広島大学病院未来医療センター長)が会長を務められます。通常でしたらいずれかの会長の地元で開催すべきところですが、諸事情により仙台での開催となります。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックの中、日本でも4月7日に全国に緊急事態宣言が発令され、これまでに経験したことのない事態を迎えています。米子市で開催予定の学術集会も6月から10月に延期せざるを得ず、会場の松浦達也先生をはじめ、会員の皆様方におかれましては多大なご苦労をされていることと推察いたします。現在猛威を振るっているCOVID-19の試練に打ち勝ち、健全な日常を取り戻して活気溢れる学術集会開催となることを期待しています。来年は、東北地方を中心に甚大な被害を被った東日本大震災から10年の節目の年となりますが、会場となる仙台国際センターの開設や会場まで延長された地下鉄などを通して着実な復興を感じていただければと思います。しばらくは月に1度程度Web会議打を行って、まずはコンセプトを確定してポスター案を作成したいと考えています。本年度学術集会の後に短期間をおいての次の演題募集開始となりますが、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。次の時代を見据えて、酸化ストレス研究を担う多数の若手研究者が集いエネルギー溢れる会にしたいと思っておりますので、会員の皆様方のご尽力を宜しくお願い申し上げます。



☪ ☪ ☪ 支部だより ☪ ☪ ☪

「関東支部」 李 昌一 (神奈川歯科大学 教授)

すでに会員の皆様方には本会HPなどで周知しておりますが、2020年2月19日(土)に芝浦工業大学芝浦キャンパスにて開催予定でした「人生100年時代を生きる～健康長寿と酸化ストレス研究～」をメインテーマとした第34回日本酸化ストレス学会関東支部会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となりました。延期開催の時期につきましては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、本会の開催動向を鑑みながら、プログラム委員会を中心に再討議し、決めていく予定であります。この先の見えない状況を打開するため、オンライン学会の可能性などを検討しながら、さらに会員主体の学会へ発展する機会として、新たな学会形式にもトライしていきたいと思っております。開催日時が決まり次第お知らせいたしますので、第34回日本酸化ストレス学会関東支部会につきまして、改めましてご発表、ご参加頂きますようよろしくお願い申し上げます。

「東海支部」 中川秀彦 (名古屋市立大学 教授)

2月22日(土)に岐阜大学サテライト(岐阜駅前)を会場として東海支部学術集会を開催しました。教育講演として岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 赤尾 幸博 先生によるマイクロRNAとワーバーグ効果についてのご講演があり、引き続き13演題の一般発表を行いました。新型コロナ感染症の広がりが懸念され始めた時期でしたが感染防止に留意しつつ開催し、東海圏から総勢41名(学生14名)が集い活発に議論が交わされました。学術集会後は近くの会場に移動し情報交換会が開催され、さらに交流を深めました。次回の支部学術集会は名古屋で開催されます。また本学術集会で支部長が交代し、鈴鹿医療科学大学佐藤英介先生が新支部長に就任しました。



受賞者の声～SFRR Australasia & Japan

2019年下半年に開催されました SFRR 関連国際学会 SFRR A+J 2019にて、下記の方々が若手奨励賞(Young Investigator Award)を受賞されました。益々のご活躍をお祈り致します。

SFRR Australasia and Japan(SFRR A+J 2019)

Date: December 8-12, 2019
 Venue: Sydney, Australia



受賞者の喜びの声

渡邊晋太郎(産業医科大学)

このたび、労働者541人を対象として、唾液中酸化ストレスマーカー: 8-ヒドロキシグアノシン(8-OHGua)に影響する生活習慣を評価した研究成果を発表し、栄えある若手奨励賞を授与いただきました。

今回の発表機会を与えて下さったSFRR+J事務局の皆様方、選考委員の先生方、平素より指導ご指導賜っております河井 一明 教授に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導のほど、よろしくお願い致します。



堀内内里奈(東京工科大学)

この度は、栄えある賞を頂き、大変光栄に思います。日頃から熱心に御指導くださった先生方あつての受賞であり、心より感謝申し上げます。今回の学会では、一重項酸素に対する尿酸の反応性が溶液のpHに依存することを明らかにした研究について発表させて頂きました。この研究を行うにあたり、上手くいくことばかりではありませんでしたが、良い研究成果を出すことができました。また、国際学会という素晴らしい機会に自身の研究成果を発表する場を頂き、このような形で受賞できたことを大変嬉しく思います。今回の受賞を励みに、新たな研究成果に向けて、より一層研究に邁進していきたいと思っております。この度は、誠にありがとうございました。

松原 彩(東京工科大学)

この度は、名誉あるSFRR A&JのYIAに選んで頂きまして大変光栄です。日本酸化ストレス学会理事長の豊國伸哉先生をはじめ、選考委員の先生方、研究をご指導頂きました先生方に謹んで御礼申し上げます。本研究では、以前に同定・報告した尿酸と次亜塩素酸との反応生成物が生体内で不安定である理由を明らかにし、その代謝物を同定しました。今後、その代謝物が新たなマーカーになり得るのではと期待しています。本受賞を励みに、今後も研究に精進していきたいと思っております。今度ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

☪ 日本酸化ストレス学会若手の会が発足します！ ☪

2020年2月に開催されました2019年度第2回理事会におきまして、日本酸化ストレス学会若手の会の発足が承認されました。若手の会では、広範な分野に跨る酸化ストレスに携わる若手の交流を積極的に推し進めることで視野を広げると同時に、酸化ストレス学会の発展と裾野の拡大の為に積極的に寄与していくことを目的としています。具体的な活動として、フリーラジカルスクールや年会時のシンポジウムを企画・主催し、学会の活性化に取り組んでいきます。現在、会の発足に向けて鋭意準備中ですが、入会手続きを開始できるようになりましたら、学会ホームページ等でご案内申し上げますので、多くの若手研究者の参加をお待ちしております。



発起人: 安井博宣(北海道大学)、伊藤紘(鹿児島大学)、
 神谷哲朗(岐阜薬科大学)、多田美香(東北工業大学)、
 永根大幹(麻布大学)、本間拓二郎(山形大学)、
 安田浩之(鈴鹿医療科学大学)、吉原大作(兵庫医科大学)

ICoFF2019と共催シンポジウム開催報告並びにJCBN特集号について

神戸で開催されたICoFF2019(第7回国際フードファクター会議、芦田 均 会長)との共催でシンポジウムAntioxidant & Redox Regulationを開催しました。豊國伸哉、半田 修司会のもと、豊國、Ki Baik Hahm、市川 寛、南山幸子の4名の発表があり、成功裡に終了しました。終了後、酸化ストレス学会の会員の発表を中心に J Clin Biochem Nutr誌に特集号を組ませて頂きました。4件のReviewと11件の原著が集まり、JCBN Vol.67, No. 1 で 発刊される予定です。会長の芦田 均先生には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。
 担当: 半田 修



◇◇◇ 学会報告 ◇◇◇



【SFRR A+J 2019に参加して】

永瀬 翠(東京工科大学)



2019年12月8日～12日に、オーストラリアのシドニー大学でSFRR A+J 2019が開催されました。私の初国際学会かつ、初SFRR A+Jへの参加は、2013年にシドニーのMercureホテルで開催された会だったので、6年ぶり、2度目となるシドニーはなんだか感慨深いものでした。

学会では、口頭発表、ポスター発表ともに興味深いテーマが多く、真剣な議論はときに笑いありと、活発に行われました。特に印象に残ったのは、オーストラリアやニュージーランドから参加している同世代の若手研究者が、学会の雰囲気や趣意に臆することなく質疑応答に参加し、議論している姿でした。同じ若手として見習うべき姿勢だと感じながらも、知識や英語力不足から、なかなか言いたいことも伝えられず、己の未熟さを改めて痛感しました。学会で企画されていたCockatoo島ツアーは、残念ながら森林火災の影響で中止となってしまいましたが、その日の夜には、ダーリングハーバーのおしゃれなレストランでJapanese Nightが開催されました。日本ではなかなかお話しできないような先生方との交流は、私を含め、若手にとっては、とても有意義な時間となりました(ご飯もとても美味しくいただきました)。また、最終日前夜に行われたバンケットではなんと、ダンスフロアがあり、日本とオーストラリア、みんなで一緒に踊ることで少し距離が近づいたような気がして、次回のSFRR A+Jがさらに楽しみになりました。

国際学会に参加すると、様々な面から毎回刺激を受けますが、今回は特に、今後を担う若手の一員となるべく研究を進め、またご報告できるように精進していこうと、改めて思うことのできた学会参加となりました。



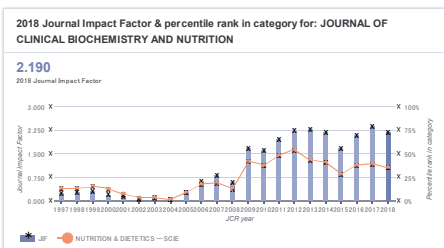
JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中！
Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbtn/>

InCites Journal Citation Reports Page 1 of 1 Clarivate Analytics



JCBN随時オンライン投稿を受付中

頁チャージは**会員特別割引価格**を設定しています。

価格改定のお知らせ(2020年7月1日より)

2019年度第2回理事会の決議を受け、一部価格の変更を行います。

会員価格 @ 5,000円/頁

非会員価格 @ 12,000円/頁

*会員各位の投稿奨励のため、会員価格の特別引き下げを(@ 3,000円/頁)を行っていましたが、一定期間を経て、会員価格を元の価格に戻します。会員特典として非会員との料金差は引き続き@7,000円と大幅に考慮した価格になっておりますので、是非とも多数のご投稿をお待ちしております。

※特別審査・掲載なども受付しております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <jcbtn@nacoss.com>

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会 東海支部 第9回学術集会

日時: 2021(令和3)年2月13日(土)午後(予定)

会場: 金城学院大学(名古屋守山区大森2丁目1723)

実行委員長: 水谷秀樹(金城学院大学 薬学部 教授)



関連国際学会

27th Annual Meeting of the Society for Redox Biology & Medicine

Date: November 18-21, 2020

Venue: Hilton Orlando Buena Vista Palace Orland, FL, USA

Further information: sfrbm.org



*現在のCOVID-19に関連し、会員各位の研究がストップもしくは延期になっている可能性も否めない現状ではあるが、最新の研究内容を共有することは重要と考え、現時点では演題公募を行なっている。(2020.5.1現在)

We realize that it has been extremely difficult if not impossible for members to conduct research over the last few months. Sharing and presenting the latest work in our field is an essential part of the SfrBM conference. That said, we are opening abstract submission now with the understanding that we'll accept your research whenever you are ready.

→ 詳細は: <https://sfrbm.org/meetings/2020-annual-conference>

関連学会中止・延期について

中止のお知らせ

20th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (hosted by SFRR-Asia)

Date: March 17(Tue.) – 20(Fri.), 2020. Venue: Taoyuan, Taiwan

Organizers: SFRR-Taiwan

*2年に一度開催のSFRR Internationalの2020年開催はありません。次回SFRR AsiaとのJointもしくは、1回飛ばして2022年の開催を検討中です。

延期のお知らせ

第34回日本酸化ストレス学会関東支部会

タイトル: 人生100年時代を生きる ~健康長寿と酸化ストレス研究~

日時: 2020年2月29日(土) 会場: 芝浦工業大学芝浦キャンパス

会長: 李昌一(神奈川歯科大学大学院 教授)



Free Radical School 2020

日時: 2020年8月9日(日)~10日(月・祝)

会場: 新潟県南魚沼市



フリーラジカルスクール開催延期のお知らせ

既にFacebookでは告知済みですが、8月9日~10日に予定としておりましたFree Radical School 2020 in UONUMAは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を勘案し、開催を延期とさせていただくこととなりました。なお、延期後の日程に関しましては、下記の2案を軸に検討中です。

A案: 10月6日(火)~7日(水)に開催予定の第73回日本酸化ストレス学会/第20回NO学会合同学術集会に合わせて10月4日(日)~5日(月)に米子市で開催する。

B案: 12月に南魚沼市でウインタースクールとして開催する。

今後の状況次第では中止にせざるを得ない可能性もありますが、この様な時だからこそ諦めずに開催を目指していきたいと思っております。事務局一同が全力で安全に開催できる様に準備を進めて参りますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

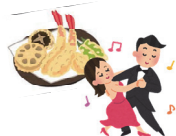
フリーラジカルスクール事務局
永根大幹(麻布大学)・吉原大作(兵庫医科大学)

延期日程や中止については、決まり次第、HPなどでご案内いたします。

新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第4回



金沢 和樹
(神戸大学 名誉教授)



大学院受験時に私は「天麩羅の研究をしたい」と希望した。ところが指導教授の松下雪郎先生は、食べ物ではなく油の酸化をテーマにしないと言われた。無知だったので準備に1年半かかり、実験2ヶ月で修士論文を仕上げた(1973年)。脂肪酸ペルオキシドの生成とその分解反応を化学反応速度論で説明し、ヒドロペルオキシドの分解には酸素の存在が必須であることを証明した。これは発見だったらしい。そして酸化反応の開始は、酸素と不飽和結合との間の電荷移動遷移だと推測した。ところが隣の研究室の浅田浩二先生が「活性酸素 Reactive Oxygen Species」という言葉を創案され、世界中がROSを研究し始めた。そして、八木國夫先生が1977年に開催された第一回過酸化脂質研究会に参加して、全ての疾患の原因はROSと知って驚いた。ならば、細胞膜の脂肪酸がROSの第一スカーベンジャーだ。これは大きな研究に展開すると思っていると、吉川敏一先生が来られ、「酸化の研究を一緒にしませんか」、まず伏見の酒蔵で飲み会。一方私は、脂質過酸化分解物の α 、 β 不飽和アルデヒドが疾患の原因である可能性を捨てきれず、ラットで実験した。その結果、アルデヒドは生体内で解毒されることを知った。これらのデータを持って海外の会議に参加した。しかし私は英語が下手で付き合いができなかった。ある会食でMG. Simic先生が、「私も日本語は一つしか知らないよ。『ごまかす』』と言ってくださった。以来気楽になり、イギリスの先生方と男同士でダンスをしたり、K. Davies先生のワインを飲むうとして叱られたり、H. Esterbauer先生に標品化合物をねだったりして楽しんだ。サルデーニャ島では、会議の休憩時間に全員で浜に行った。すると、先生方が奥さんと一緒に丸裸で泳ぎだした。羨ましそうに見ていると、隣にいた女性の先生が「金沢さんも裸で入りなさいよ」、さすがにその勇氣はなかった。



その頃から抗酸化物質の研究が盛んになった。私はWHOの仕事で、植物成分の生理活性を明らかにして機能性成分と名付けていた。しかし現在は機能性食品否定論者である。抗酸化物質は効果を発揮したのちには酸化剤になる。プロオキシダントにならないのは、捕獲した電子を分子内に留めることができる、高分子のデンプンやタンパク質である。ROSが生体内で発生するのは、電子伝達系とCYP酵素や好中球が異物を解毒した時だが、このROSは酵素が消失する。となると、暴飲暴食と異物摂取を避け、毎日美味しいものを少しずつ多彩に、がベスト。

「新しい日常」における学会 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～



新型コロナウイルス感染症の拡散防止対策のため、学会・研究会の延期・中止が国内外に関わらず相次いでいます。その収束の見込みが未だ立たない中、今後の学会・研究会活動にも様々な新しい形が求められる様相です。

- その方法としては、
- ・規模を縮小する。
- ・WEBによる開催、もしくは併用とする。
- ・誌上发表を採用する。
- 等、様々に検討がなされています。



大勢の参加者が集まる会については、今しばらくの自粛、もしくは、感染対策を講じての開催が求められている為、本会の年次学術集会、関連支部研究会なども臨機応変な対応となりますので、会員各位におかれましては、ご理解とご協力の程お願い致します。

～***～***～***～***～***～***～***～

ウイルスは自分自身で増えることができず、粘膜などの細胞に付着して入り込み増えます。表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいますが、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつとされています。流水と石けんでの手洗いや手指消毒用アルコールによって感染力を失わせることができます。

感染経路の中心は飛沫感染及び接触感染と言われています。人と人の距離をとること(Social distancing; 社会的距離)、外出時はマスクを着用する、咳エチケットを心がける、さらに家やオフィスの換気を十分に、十分な睡眠などで自己の健康管理をしっかりする等で、自己のみならず、他人への感染を回避するとともに、他人に感染させないように徹底することが必要です。

また、閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。無症状の者からの感染の可能性も指摘されており、油断は禁物です。

これらの状況を踏まえ、「3つの密(密閉・密集・密接)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒や咳エチケットの励行などが求められています。



詳しくは厚生労働省HPなどをご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

◇ SFRR International & Asia News ◇

次回 SFRR Asia Biennial Meeting

10th SFRR Asia (2021)

日時: 2021年4月26日～5月1日(予定)

会場: 韓国 大邱(予定)

会長: Prof. Young-Joon Surh (ソウル大学)

担当: SFRR Korea

* 実際の開催については、COVID-19感染拡大の状況と並びにSFRRとの調整も踏まえ、開催の可否を含めて、検討が進められている。

役員情報:

Executive Committee: 2020-2021

President: Yuji Naito(Japan)

President-elect: Young-Joon Surh (Korea) *(2022年President就任予定)

Secretary general: Osamu Handa (Japan)

Treasurer: Hideyuki Majima (2019年度退任)

→ Hidehiko Nakagawa (Japan) が候補として選出された。

次回SFRR Asia役員会にて承認を踏む予定。



Official Journal

Free Radical Research (Official Journal; SFRR Asia)

Taylor & Francis より継続的に若手奨励賞を中心にサポートを頂いている。

Editor-in-chief: Koji Uchida (Univ of Tokyo)

4,000 pounds(約60万円) every year for SFRR Asia/International

SFRR Japan (日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

令和2年目の幕開けは、予期せぬ新型コロナウイルス感染拡大と共に、緊急事態宣言の発令を経て、例年の“春らしさ”を感じることなく過ぎていた感があるかと思われます。6月開催の年次学術集会が延期となり、例年会期中に配布させていただいておりますニュースレターの現地配布が叶わず残念な気持ちですが、こうして少し遅れでもなんとか6月号を発行出来ることを嬉しく思っております。内容的には延期や中止と暗めのニュースが多くなっておりますが、会員各位におかれましても、これからは、新しい日常として、出来る感染予防対策を取りながら、明るい未来を信じて、日々お過ごし頂けたら幸いです。6月30日は、茅で編んだ直径数メートルの輪をくぐり、心身を清めて厄災を払い、無病息災を祈願する夏越の祓。皆様が健やかで穏やかな日々を過ごせますように。また、掲載希望の記事などございましたら、編集事務局宛ご連絡お願いします。



NL問合せ/連絡先: sfrrj@koto.kpu-m.ac.jp

SFRR Japan Newsletter 2020年6月号

発行: 2020年6月17日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局
(総務委員会: 内藤裕二・半田 修)

法人事務局: 〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel: 075-415-3661 Fax: 075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail: sfrrj@koto.kpu-m.ac.jp

HP: <http://sfrrj.umin.jp/index.htm>

